

今年は新型コロナウイルス感染症に振り回された一年間でした。自粛、縮小、我慢、中止など、ネガティブワードが横行しました。生徒にとっては悔しい一年となりました。しかし、生徒は工夫を重ねながら乗り切ってくれたように思います。

今年最後の行事、弁論大会が行われました。12月18日(金)に中学校、21日(月)には高校1、2年生。本来であれば体育館での対面開催にしたかったのですが、コロナ禍にあってzoomによる開催となりました(中学校はYouTubeで)。本校の弁論大会は前身の学校から70年以上も続く伝統行事。今回もそれに相応しい内容の大会となりました。以下は、最優秀賞となった3人の弁論(要旨)です。



## とどけ！ 私たちのこの想い

### ◆「No racial discrimination」

(中学1年 岩本千恵)

2020(令和2)年5月25日。この日付を聞いてみなさんは何を想像しますか。私は真っ先にアメリカのミネソタ州ミネアポリスの路上で、白人警察トーマス・レーンが黒人男性ジョージ・フロイドの首を膝で押さえつけて殺した事件を思い出します。人種差別が起こったのです。過去の人種差別事件を調べると、たくさんあることを知りました。人種差別について調べていくと、陰口・悪口も同じことだと思ようになりました。どれも人を傷つけるからです。最近、学校での陰口が気になります。もちろん陰口・悪口を言いたくなる気持ちはわかります。自分とその人では考え方が違うからです。そこで言うか言わないか。言わずにその人の良いところ考えると、悪いイメージがなくなり、良いイメージが残ります。陰口や悪口がなくなること、それは人種差別がなくなる第一歩だと考えます。「No racial discrimination」、第一歩となるこの学校からのいじめや陰口・悪口をみなさんの手でなくしましょう。

### ◆「高校生」

(高校1年 山本理央)

高校生は大人ですか？ 子どもですか？ みなさんはどう考えますか。私は、高校生は小さな大人だと考えます。そう考える大きな理由は、高校生は曖昧だからです。中学生は子どもだという意見がありますが、それは中学生が12歳から15歳まで義務教育として通っているからです。しかし、高校は学校によって定義も年齢も違います。私たちは、「もう大人なんだから自分のことは自分でやりなさい」と叱られたり、と思えば今度は「まだ子どもなんだから自分で勝手に決めては

だめでしょう」。もう、どうしたらいいんですか。私は大人になりたいです。自分でやりたいことをして、親に縛られずに自由に生きてみたいです。でも、私は子どものままでみたいです。高校生は小さな大人なのかもしれません。大人と子どもの境界線ははっきりしていません。でも、この曖昧な時間は、これからをつくると思います。今の性格や考え方が10年、20年後の自分の性格、考え方の根本になります。それくらい今は大事で、一生懸命に生きる時間です。改めて、みなさん、高校生は何者だと思いますか？ 大人の視点、子どもの視点、それ以外の視点で考えてみてください。

### ◆「安らぎと尊厳」

(高校2年高橋 優)

死は人生の終末ではない、生涯の完成だ(レオナルド・ダ・ヴィンチ)。みなさんはどのような最期を考えていますか。私は考えてみても、どうせ死ぬなら苦しみたくはないと思うくらいです。しかし、私もみなさんも明日生きているとは限らない。その時が来ても何もできずすべてが終わってしまうかもしれません。私がこのような考え方を持ち始めたきっかけは、安楽死についての映画を観たからです。安楽死は尊厳死とも呼ばれています。2020年11月11日の新聞記事では、尊厳死を法律化することに賛成は84.5%、反対は15.5%でした。85%の人が尊厳死の法律化を賛成していても、踏み出せない理由も理解できるのです。それは、命の尊さについてのこと、医師の精神的負担のこと、本当に本人が望んでいるか確かめることが困難なことがあるからです。もし、安楽死や尊厳死が合法化されたとしたら、みなさんは家族で大切な人の意思がどんなものでも尊重できますか。みなさんなら最期、どうしますか。